

会議記録

件 名	令和 7 年度第 4 回茅野市 DX 推進協議会
日 時	令和 7 年 12 月 17 日(水)17:00～18:05
場 所	茅野市役所 703 会議室
参加者	茅野市 DX 推進協議会)北原会長、寺澤副会長、原田副会長、今井委員、竹内委員、守屋委員、林委員、熊谷委員 事務局)小池企画部長、牛山 DX 推進課長、須田企画幹(オンライン)、今 CDO 補佐官、小田島地域 DX 推進係長、伊藤
欠席者	なし
会議要旨	
協議事項:防災 DX に関する DX 推進協議会報告書(案)について 【議題の背景】 茅野市では、災害時の避難所運営における課題(受付の混雑、避難者情報の把握等)を解決するため、DX を活用した新たな仕組みの導入を検討。その中心となるのが「避難所チェックインシステム」。 目的は以下のとおり: ①ストレスフリーな避難所受付:混雑緩和と受付時間短縮 ②避難所状況の可視化:市全体の避難状況をリアルタイムで把握 ③避難者情報の取得:医療・福祉支援に必要な情報を迅速に収集 本協議会は、行政発議の事業に対し、市民意見を踏まえた検討結果を報告書としてまとめ、市へ提出する役割を担う。 これまでの議論を踏まえ、外部評価委員会報告書を基に、協議会としての視点(災害支援者・DX 推進主体)を加えた最終案を作成することが本日の目的。 【これまでの経過】 ➤ 第 2 回協議会 ● 茅野市防災の現状と課題を整理 ● 避難所チェックインシステムの有効性を説明し、協議会で「有効」と認定 ● 目指すビジョン: ①ストレスフリーな避難所受付 ②避難所状況の可視化 ③避難者情報の取得 ➤ 第 3 回協議会 ● 外部評価委員会による市民目線での検討結果を報告。 ● 修正点:「接続性」を付帯事項に追加し、拡張性と持続性の補足を追加。 【DX 推進協議会報告書(案)の主な変更点】 ➤ 項番3.「市民意見聴取の方法」を新設 ➤ 項番4. の名称を「事業のメリット/課題」に変更 ➤ 項番4. 中のメリット・課題を整理(受付効率化、避難できない人への対応) ➤ システムに対する改善提案・その他防災提案に推進協議会の過去意見を反映	

➤ 全体的な文言修正・体裁調整

【協議の論点と意見】

➤ 平時活用の提案

- イベントや行政手続きでの利用による災害時の円滑運用を目指す

➤ 避難所数と導入範囲

- 基本避難所 25 カ所＋補完避難所 21 カ所(計 46 カ所)
- 導入施設や規模の明確化と導入の拡張性確保が必要

➤ システムの拡張性の確保

- 医療情報連携、マイナンバーカード活用、庁内連携を提案
- 将来的な医療・福祉分野との連動を視野に

➤ 普及啓発

- 市民及び、観光客や二拠点居住者への周知を強化
- マイナンバーカードの有用性を啓発

➤ 導入スピード

- 意思決定後の早期導入を提言
- 防災の日に試験運用(9 月トライアル)を提案

➤ 総括・付帯事項の修正方針

- 「概ね賛成」→前向きな表現に変更
- 普及啓発を強調し、導入の必要性を明記
- 導入判断の論拠として、DX 基本計画への該当性・優先性・合理性・汎用性・経済性を整理
- 段階的導入と庁内連携を提案

【今後の流れ】

- 本日の意見を反映し、事務局で最終案を作成
- 書面決議で承認後、防災課へ提出
- 仕様決定・事業化後、協議会・外部委員会へ共有予定

報告事項：ヘルスケアデータ連携基盤(HCDP)のアップグレード

【背景】

令和 4 年度に導入した都市 OS・HCDP 等の関連サービス群のうち、現状等を踏まえた HCDP 等のグレードアップを検討。

【現状整理】

国の PMH 構築、マイナポータル機能充実、信州メディカルネット再構築により、市の役割を再定義。

【今後の方針】

- 健康づくり分野に特化
- 民間アプリ活用による利便性向上
- 健康行動の見える化、ポイント付与によるモチベーション維持
- AI による個別リスク分析・EBPM 促進

1 開会

2 会長あいさつ

足元も悪くなりつつありますが、年末を控え、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
今日は当協議会の報告書をどのようにまとめるかという点の協議事項 1 件と報告事項 1 件がございます。限られた時間ではありますが、皆様の忌憚のないご意見を積極的にお出しいただき、議事を進めてまいりたいと思いますのでご協力のほどお願い申し上げます。

－ 議事進行を会長に交代－

3 協議事項

(1)防災 DX に関する茅野市 DX 推進協議会報告書について

－事務局より資料 1 に沿って説明－

●本日は、これまで計 2 回にわたりましてご議論をいただきました防災 DX の締めくくりとなります。

【本日の議題】

●本日の議題は、前回ご議論いただきました DX 外部評価委員会からの報告書をベースに DX 推進協議会から茅野市への報告書(案)を作成しましたので、この内容について推進協議会の皆さまからご意見をいただき、最終取りまとめをさせていただきたいと思っております。

【これまでの会議の振り返り】

●第 2 回会議では、茅野市の防災に関する現状と課題についてご説明させていただいた上で、その課題解決手法の一つとして、避難所チェックインシステムの導入について、その有用性も含めてご説明をさせていただきました。

また、避難所チェックインシステムの導入によって目指すビジョンとして、次の 3 つをご説明させていただきました。

①ストレスフリーな避難所受付の実現

②避難所状況の可視化

③避難者の詳細情報の取得

これらの説明を踏まえまして、推進協議会におかれましては、避難所チェックインシステムについて「有効」とであると認めていただいた上で、様々なご意見をいただきました。(資料 1 P6)

そのうち、赤字箇所につきましては、DX 推進協議会報告書(案)へ反映させていただいています。

なお、推進協議会からご承認いただいたことを受けまして、次の段階として、市民意見の収集を目的とした外部評価委員会での検討を進めさせていただきました。

また、同会議において推進協議会構成員の皆さまが所属される各団体における災害対応についても共有をいただき、その中で委員の方からいただきました防災訓練に関するご意見も報告書(案)へ反映しております。(資料 1 P7)

●第 3 回会議では、まず外部評価委員会での検討内容についてご説明させていただきました。

市民目線での避難所チェックインシステムの必要性を検討するため、検討テーマを「避難所チェックインシステムは市民にとって便利なものであるか/使ってもらえるものであるか」とし、P9 のとおり進めさせていただきました。

この検討結果(P10)を報告書形式にまとめた「茅野市 DX 外部評価委員会報告書」の内容につきまして第 3 回会議にてご確認をいただいたところになります。

ただ、第 3 回協議会後におきまして、外部評価委員会から一部内容の修正がありました。

外部評価委員会報告書中、項目 7.付帯事項の一行目に“拡張性・持続性を確保すること”とありますが、ここに「接続性」というワードが抜け落ちていましたので新たに追記させていただいています。合わせて、拡張性と接続性の意味の違いを明確化させるため、それぞれの言葉が指す意味について括弧書きで補足を追記しています。また、五行目は修正前が“持続性”となっていました、正しくは記載のとおり“接続性”となります。

なお、第 3 回会議においても外部評価委員会報告書等に対するご意見をいただき、意見交換をさせていただきました(P12)

【DX 推進協議会報告書について】※資料 1 P14、15及び資料 3

●DX 外部評価委員会の報告書との変更点についてご説明させていただきます。

①DX 推進協議会報告書(案)項番 3.として新たに「参考とした市民意見聴取の方法」という項目を追加させていただいています。

今回の推進協議会の報告書につきましては、行政発議の事業に対する検討協力依頼に対して、市民意見を踏まえた検討結果を報告書という形で茅野市へ提出するものになりますので、推進協議会として、どのような手法で市民意見を収集したかを明確にする目的で新設させていただきました。

その上で、今回は外部評価委員会への意見聴取による旨を記載しています。

②項番 4. の表題を「事業のメリット/課題」に変更しております。

こちらは先ほどの項目 3. を設けたことによって、市民意見を踏まえた結果を記載するという意味合いになりますので、単純な項目出しとして表記を変更させていただいています。

③項番 4. 事業のメリット/課題の(メリット)中、1 ポツ目「避難所受付の効率化による受付時間短縮、混雑緩和」について、外部評価委員会報告書の(メリット)の 1 ポツ目と 3 ポツ目を“避難所受付の効率化”という観点でまとめています。

④同様に(課題)の 2 ポツ目「自主避難者や地元(市内/居住地区)にいない時の活用方法」については、外部評価委員会報告書の(課題)の 2 ポツ目と 8 ポツ目を“避難所に避難しない人、もしくはできない人”という観点でまとめています。

⑤項番 5. システムに関する改善・提案事項、項目 6.その他防災に関する提案事項等の黄色塗りの項目は、第 2 回推進協議会でいただいたご意見を反映させていただいた項目になります。

⑥その他、文書の表現等を修正しています。(資料 3 中の赤字箇所)

【本会の協議事項】

①推進協議会報告書(案)は外部評価委員会報告書をベースとした内容になっていますが、全体の体裁や構成、あるいは推進協議会として加除修正を要する内容がありましたらご意見をいただきたい。

②報告書(案)項番 7. 総括と項番 8. 付帯事項について、(案)に記載の内容は、外部評価委員会報告書の内容をそのまま引用していることから、これまでの外部評価委員会の検討経過のとおり、市民目線かつシステム自体やシステム導入にあたっての意見が主になっています。

一方で、導入後の活用についての観点や、サービスに期待する効果といった観点について、第 2 回推進協議会でもお話しいただいたように、各団体の皆さまから災害支援者としての目線や茅野市の DX の推進主体という目線からご意見や展望を頂戴したい。

【今後の流れ】

●本日のご意見を反映させた DX 推進協議会報告書の最終案を DX 推進課で作成させていただき、書面決議ないしは必要に応じて集合会議によって確認・承認をいただいたのちに、正式に DX 推進課から担当課である防災課へ報告書の提出をさせていただきます。

その後、行政(防災課)におきまして、仕様決定、事業化と進んでいくこととなりますが、事業の方向性が固まった段階では、推進協議会・外部協会委員会への共有を予定させていただきます。

質疑等

○会長

ただいま事務局より説明がありましたとおり、本協議会においてこれまで2回にわたり協議を行ってまいりましたが、外部評価委員会からの報告書をもとに、当協議会での議論も踏まえた茅野市への報告書の案が示されている状況でございます。

本日は本報告書(案)についての最終的な確認ということになりますので、よろしくお願いいたします。外部評価委員会報告書では、市民、いわゆる避難者としてのユーザー目線、かつサービス導入に対する意見が主になっていることがわかると思いますけれども、一方で、推進協議会や構成団体においては、行政も含めた災害支援者としての活用の観点から、サービスに期待する効果や活用方法に関してまとめていくことがポイントになると思います。

事業実施主体である行政における導入効果や導入後の活用法などに関して、市当局や当協議会に参加されている各団体において、サービスや情報の活用によるメリットが効果的に出せるようにするための報告としてまとめることが重要だと考えておりますので、そのような観点からご意見を賜りたいと思っております。

報告書の項番1から3までは議論の余地がないと思いますので、次の項番4.5.6.について追記した方がよい事項や修正したい事項、あるいは体裁を変えた方がよいかなどについてまずご意見を伺いたいと思います。

【報告書項番4.5.6.】

○委員

現在、指定避難所は何カ所ありますか。

○事務局

指定避難所は、基本避難所と補完避難所と言われるものがありまして、基本避難所は最初に避難する避難所となり、基本避難所に入りきれなかった場合に補完避難所が開かれることになります。

基本避難所は主にコミュニティセンターや小学校の体育館などで25カ所ありまして、補完避難所は保育園、サービスセンターなどで21カ所。あわせると46カ所になっております。

○委員

項番5.のシステムに関する改善提案事項の2ポツ目に“平時におけるシステム活用や情報取得方法の確保”とありますが、平時におけるシステム活用という観点では、今回は避難所チェックインシステムとして検討しているものですが、平時の場合には避難所は特に開かれていないので、例えば平時におけるイベント等でもシステムの活用ができると、災害時にもスムーズに受付ができていくような行政にとっても市民にとってもシステムに慣れる機会ができるのではないかと思います。

ですので、避難所チェックインシステムとして避難所だけに特化するのではなくて、普段からの活用の機会もあっていいのではないかと思います。

○委員

外部評価委員会報告書に記載の平時における活用とはそのようなイメージですか。

○事務局

どちらかと言いますと、避難所チェックインに特化するというよりは、アプリを使って防災情報の配信等をしていくことによって、普段からそのアプリを活用していくというイメージを持っています。

○委員

発信の関係ですか。今委員がおっしゃられたように、イベント等で使うことで訓練にも繋げるような構想は特にはないですか。

○事務局

できると思いますが、現時点ではそこまでの構想はできていないところです。

○委員

イベントやスポーツ大会、様々な会議でこのシステムを活用して、受付に慣れていけば災害の時にもスムーズにいくと思います。

○事務局

おっしゃるとおり、普段から使えないものを災害時にいきなり立ち上げて使おうというのは無理な話なので、なるべく普段使いの用途を広めに想定することを考えています。

あくまで確定ではなく、構想の話として聞いていただければと思いますが、例えば防災に関するイベントとして防災訓練での活用や、行政手続きのデジタル化、体育館等の公共施設の予約等の行政系の手続きをアプリに集約して日常の使い道を広げていきたいと考えています。

また、今回避難所チェックインシステムの検討に協力いただいている企業さんでも、フェーズフリーにアプリを使えるようにというコンセプトのもと、いろいろな機能の開発をされています。

その中で、電子回覧板の機能については、実際に市内の一部の地域では試していただいているところもありますので、そのような形で普段使いについて、皆さまの声を聞きながら広げていきたいと考えているとご理解いただければと思います。

○委員

ありがとうございます。少しでも委員がおっしゃったようなニュアンスも盛り込めればいいと私も思っています。

もう一方で、指定避難所あるいは補完避難所が市内には40何カ所あるとのことですが、これについても八戸市等の最近の災害を見ると、寒いとか、お風呂をどうするかといった問題が出ているので、どこにチェックインシステムを導入するか、何カ所導入するのか等が分かればいいと思います。

実は諏訪東京理科大学でもセミナーハウスがあまり有効活用されていなく、もうちょっと活用できないかということで避難所指定も少し考えようという議論は行っている最中なので、避難所の拡充等も含めてシステムに余力が若干あった方がいいという感じはしています。

今の話も含めて、“拡張性”という話になってくると思いますが、そういう観点は大事だと思います。

○委員

このシステムだけではなくて、これから様々なシステムを導入していく時に共通することだと思いますが、せっかくこういうものを入れるので、事前に市民の皆さんや受け入れ側の方々に、こういうものがあることや、使っていきたいと思いますといった周知を図っていくことが導入効果を十分に発揮するために重要だと思います。

極めて単純なことです、このアプリの導入にあたって広く市民への周知を行うことが、まず行政側に対して協議会としては言うべきことではないかという気がしております。

○委員

普及啓発についても以前に若干議論した経過があったかと思います。

こういうものを入れるときには、やはり皆に知ってもらうことも大事なので、普及啓発についてはもう少し入れていただいた方がいいという意見は私も委員と同じですね。

○委員

他にも、茅野市に訪れる人、観光客等にもちゃんと周知しないといけないだろうと思います。市民だけではなく、広く来訪者も含めて何か周知できるようになった方がいいという気がしています。

○委員

茅野市の場合は別荘に二拠点居住の方も大勢おられて、その人達に情報をどう繋ぐかは結構大事な要素になってくるような気がしますので、そういう要素を課題として挙げていただければと思います。

○会長

他にもお気づきの点がありましたら、まだ事務局の方へご提案いただければ反映できると思いますのでよろしくお願いいたします。

【報告書項目7.8.について】

○会長

続いて、報告書の項番7.総括と項番8.付帯事項については、外部評価委員会報告書の表現をそのまま活用しているので、これについては当協議会としての立場をもう少し打ち出せた方がいいとは思っていますがいかがでしょうか。

○委員

総括として「概ね賛成と考える」という表現は、ちょっと腰が引けている感じがするので、もう少し前向きな表現にしたい。利便性を考えて予算の範囲内で適切なものを導入されたらどうかとは思いますが、そのような雰囲気にしてもよろしいですか。

次の文章も「期待する」というのはちょっと弱いような気がしている。自主避難行動を促すことができるので、「行政として普及啓発にもっと努めるべき」といった表現にした方が良いと思いますが、何かご意見があったらお願いいたします。

○委員

含みを持たせているということは、業者選定の要因が入っていることを意味しているのか。

○事務局

担当課の防災課の方で、いただいたご意見を踏まえてこれから業者選定や予算確保まで持っていきますので、特にそこを強調して意識しているわけではないです。

外部評価委員会からいただいた意見をまとめさせていただく中で、このような表現になったということです、今ご意見をいただいているように前向きに言っていただいても構わないと思っております。

○事務局

外部評価委員会の方で出していただいた市民意見がベースになっているものがそのまま転記されますので、言い回しは協議会から市への報告書として、むしろ直していただいた方がいいと思いますのでよろしくお願いします。

○委員

むしろこれから仕様書を作成して選定していくということであれば、我々推進協議会としては、今、市の機能としてこういうものは必須だ、導入についての必要性は大いにあるというくらいちょっと強めに言った方がいいと思います。

○会長

確かにサービスを導入すれば避難所の状況は分かるので、自主避難行動を促すことはできるという点においては異論ないと思います。

こういった意見を受けて、「こういったことが実現できるので、発災時に避難者が迅速に安全な避難を行えるような体制を整備されたい」というようなイメージが、協議会からの意見としてはいいのではないかと思いますので、そのようなイメージを事務局の方でまとめてもらうことでよろしいでしょうか。

—異議なし—

○会長

では、総括についてはそのような形でご検討をいただいて、もう少し提案型として市の方をお願いしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いて付帯事項の関係で、何かご意見等あればお願いいたします。

○委員

先ほどの委員のご意見も、付帯事項の中にうまく入れ込んでもらえれば、普段使ってみて利便性などをチェックしていくようなイメージがあれば、その方がいいかもしれないですね。

○委員

付帯事項の方が幅広いような意味合いになるかと思います。

○委員

そうですね。そんなことを入れ込んでいただければと思います。

○委員

防災分野の担当課だけではなくて、いわゆる庁内連携みたいな形で検討していくようなところも入れていただけると良いと思いました。庁内連携によって茅野市全体で取り組んでいくみたいなところが書かれるといいと思います。

○委員

以前に福祉避難所の話が出ましたが、福祉関係の方々がいろいろな大会をやったりする時に避難所に

なる施設を使ったりしているので、そういう時にうまく使ってテストできればいいですね。

○委員

この避難所チェックインシステムは、避難所に誰が逃げてきたかを確認するだけの目的で導入するわけではないですね。

避難所に長い間入居している人の中には持病を持っていたり、薬が欲しい人も結構居たりするので、そういう人をどう見ていくかということを最近思っています。

そのような時に、マイナンバーカードが今では保険証になったりしてきているので、マイナンバーカードを主体に使えば、そういうことがきちんと確認できるのではないかと考えていますので、項番 5 ないしは 8 で、そういうことも考えたシステムの検討を入れ込んだ方がいいのではないかと考えています。

○委員

前回も、どのように医療情報まで拡張できるかの話をさせていただきましたが、概ねそういうことを見据えた“拡張”については書かれているとは思いますが、どこまで具体的にするかはお任せしたいと思いますがその辺りのことを盛り込んでいただければ。

○委員

マイナンバーカードでチェックインシステムにそのままストレートに行くことは難しいかもしれませんが、訪問診療等の医療関係は避難した場合には必ずセットになってくるので、訪問診療系の先生がマイナンバーの読み取り機を持っていれば、それで連動することはできますよね。

ですから、そういった拡張性をこのシステムだけで担保しようと思っても無理なので、そういった連携による拡張性についても検討してもらえれば。

ただ、マイナンバーカードを持って逃げるかどうかは、以前も話に出ましたが別の話。

○事務局

すでに世に出ているシステムの中には、マイナンバーでチェックインできるものもありますので、カードの中に入っている基本 4 情報を読み取ることはできますが、会長さんが言われたようにマイナンバーカードを持って逃げまじようといったことですか、パスワードがわからないといった理由でなかなかスムーズにならない部分はあるかと思います。

ただ、その問題が解消できるのであれば、マイナポータルからいろんな必要情報が取れることでより便利になると思います。

○委員

医療系情報を取りに行くには、ドクターがいるような訪問診療系等とうまく繋がなければいけなかったり、ドクターには見れるような仕組みでなければ意味がないので、そういうことも含めて、実現するためには、逃げる時はマイナンバーカードを持って逃げてくださいという啓発が必要だと思っています。

○委員

免許証と携帯電話はきっと持って出ますから。免許証や保険証がマイナンバーカードになっていけば、マイナンバーカードが一番重要だという世界に近い将来になるのではないのでしょうか。

○会長

その辺りは普及啓発の仕方にもよると思いますので、当協議会としては、付帯事項としてマイナンバーカードが避難する時には役に立つということを啓発していくことをお願いできればと思います。報告書(案)の付帯事項の最後の項目がそれにちょっと近い話だと思いますが、もう少しマイナンバーカードの有用性のような観点に触れてもいいかもしれないと思いますので、ご検討いただきたい。せっかく入れるならば、やはり皆さんの役に立つようなものを入れてもらいたいというのが一番だと思うので、懸念事項等皆さんの知見の中でありましたらお願いしたい。

○委員

このシステムはどのくらいの期間をかけて作るのですか。

○事務局

契約してから事業が始まるまでの期間は確認ができていないですが、ゼロから作るものではなく、一般的に動いているサービスに茅野市のカスタマイズをしていきますので、導入が決まってから半年ないしは数ヶ月程度の期間で動くのではないかと考えています。

○委員

既存システムにどのぐらいカスタマイズができるかという話になってくるということですね。

○委員

テスト等はいつ行いますか。すぐにできますか。

○事務局

予算が通ってから契約をして、避難所の設定等を経て茅野市として使えるような状態になってから、来年の下半期頃にはテストもできればいいと思っています。

○委員

防災の日に避難訓練テストを全市的に何カ所かで試験的にやろうと思えば第1回トライアルは9月に実施できる。ただ、また次に検証するとなると再来年の9月になるので結構長い道のりですよ。区の役をやっていると防災訓練で何をやるか、実は頭を悩ませているので、協力依頼があると区としても楽だと思いますし、そういう形で市民にアピールしていくのもいいかと思います。

○委員

市の方が導入を是としていただければ導入スピードは上げてもらいたい。

○事務局

おっしゃる通り、スピード感を持ってやっていく必要があると思っています。

ただ、おそらく今お話しいただいたような機能をいっぺんに入れるとなると、それなりの予算規模になってしまうのと、やはり他課に跨る連携が必要になってくると思います。

そうなってくると逆にスピード感が損なわれてしまうところがあって、イタチ返しなところがありますので、段階を追って入れていくことが大事だと思います。

今おっしゃっていただいたような機能のうち、何が一番使いやすいか、クリティカルなポイントなのかを見極めながら一つずつ実装していったり、何年かかけて完成層に持っていくことを今は想定しています。

○会長

“報告”ということなのである程度盛り込んでいただいて、選択は行政側にあるので、当協議会としては今言ったような意見をうまく盛り込んでいただければと思います。

○委員

それを振り返ると、先ほどの総括についても、DX 基本計画の重点項目に該当しているかの該当性や、優先的に取り組むべきかといった優先性や緊急性、これを入れることによって合理的になるかという合理性、拡張できるという意味での汎用性、それと今お話に出た経済性。

こういった判断するための 5 項目のようなものを挙げて、最終的に導入は妥当と考えるというような立て付けでないと協議会の判断としても辛いなど感じる。

○委員

ロジックとしてはおっしゃるとおりで、外部評価委員会からはそういう前提なしに、こうしたいという声を聞いて、協議会で専門的な観点や使う側の視点から、やっぱり使った方がいいよねという理屈は付けられないといけないと私も考えます。

○委員

今の判断の 5 項目がいいのかどうかはわかりませんが。

○委員

そこは例えば 3 項目ぐらいでもいいですし、「入れるのが適切だ」というような論拠付けは入れてもらった方がいいと思います。

○委員

経済性と言うと、じゃあいくらかかるのかということまで出すという話にもなりかねない。

○委員

事務局の話を踏まえると、段階的にきちんと整備していただきたいということまで言うかどうかも含めて、一番いい表現を考えていただければと思います。

○事務局

これまでの意見を整理する形でまとめ直したいと思います。

○委員

“避難”というテーマは支援する上での一番基本的なベーシックなところですよ。

ここからまた汎用性があって、罹災証明や薬の処方、物資の供給等に派生する問題も出てきますので、そういう意味では整備する優先性はあると思います。

そういった観点を一つずつ整理していけば、導入の妥当性は当たれるかなという気がします。

○会長

地震の発災で被災者が出れば、“避難”は必ずやらなければいけない話ですし、毎年大きな災害も日本

で起きていますから、茅野市が例外ということはないと思うので、そういう切実性も少し入れてもらって必要性に肉付けしてもらえればと思います。

あとは事務局の方にまとめいただいて、書面で了解を得させていただいたうえで、市の方に報告するというような形で対応したいと思いますがよろしいでしょうか。

—異議なし—

4 報告事項

(1)ヘルスケアデータ連携基盤(HCDP)について

—事務局より資料 4 に沿って説明—

令和 4 年度に、デジ田の補助金を使って都市 OS やヘルスケアデータ連携基盤(以下、HCDP)等のサービス群を導入しました。(令和 5 年 3 月 22 日推進委員会にて説明)

まず、サービス群 A として都市 OS 等の行政関連サービス群、サービス群 B として HCDP や HCDP のデータを見るためのちのカル、現在市内で活用が進んでいる Mell+(メルタス)等の要支援者見守りサービス群、サービス群 C として観光の関係アプリなどを導入しましたが、今日はサービス群 B に関するグレードアップをしていきたいという報告になります。

今回のグレードアップについて、これまでの経過も踏まえてご説明させていただきます。

【デジ田で目指した方向性・目的】

当時デジ田の補助金を活用して目指した方向性と目的ですが、

- ①ヘルスケア情報、医療、介護、検診などの情報を統合的に集めることができるデータベースを作っていくこと。そのプラットフォームとして令和4年度に HCDP を整備しました。
- ②自身のヘルスケアデータを確認することで、健康情報、健康増進につながる行動を促進することを目的に、データを閲覧するためのちのカルというアプリを作りました。
- ③AI がケアプランを提案する等、事務仕事を機械に任せることで、対物から対人業務への移行促進を目指して、AI ケアマネというものを当時考えておりました。
- ④医療介護の多職種や患者情報を共有し、コミュニケーションが取れるプラットフォームを構築するため、Mell+を導入しました。こちらは現在市内 42 事業所が加入し、800 人以上の患者さんの見守りに使われておりまして、順調に利用が進んでいる状況です。

●今回バージョンアップの対象となるのは、このうちの HCDP、ちのカル、AI ケアマネになります。

【現状の整理】

- ①国による PMH(自治体、医療機関、薬局などで医療費助成、予防接種、母子保険、介護保険などの公的制度の情報を安全に共有するための情報連携基盤)の構築が進んでおります。

このことから、当時市が目指していた医療やヘルスケア分野での情報連携基盤が、すでに作られている現状があります。

- ②マイナポータル機能が充実してきており、検診情報等を市民の方もマイナポータルから閲覧することができる状況にあります。

- ③信州メディカルネット(信大病院を中心に、信州メディカルネット協議会が運営する県内の医療機関が、相互で患者の診療情報を共有することができる連携システム)の再構築の検討が進んでおりまして、医療機関は、こちらを活用して医療情報等の共有ができる状況にもなってきております。

●こういった状況の変化を踏まえまして、国と市町村の役割分担をもう少し整理して、市町村が担う役割を明確に整備する必要があるのではないかとということで、これまで検討を重ねてきた結果、市としては、市民の身近な健康づくりの分野に特化していくのがいいのではないかと考えております。

【今後の方針】

そういったことを踏まえまして、今後の方針ですが、

- ①予防接種情報や健診情報、医療情報等は PMH やマイナポータル、信州メディカルネットといった国等が構築した仕組みを活用して利便性を上げていただき、市としては重ねてになりますが、健康づくりの分野に特化することに目的を再明確化し、汎用性がある民間アプリを使うことによってバージョンアップを図っていきたい。
 - ②アプリユーザーの行動に応じて、“もっと歩いた方がいいですよ”、“もう少しこうしましょう”というような個別の目標をアプリ内で提示する、また課題をクリアするとポイントが付くようなインセンティブを設ける等、健康行動の目標と成果が見える化することによって、利用者のモチベーション維持に繋げたい。
また、市で行っている健康づくりポイント事業とも連携して、現在は紙で実施している事業のデジタル化もあわせて進めていきたい。
 - ③AI の関係については、アプリを使っているユーザーの行動に応じて、健康リスク等を個別に分析して、アドバイスをくれるような AI が入っているものもありますので、そういった個人ごとに合わせて使えるような AI をハイリスクアプローチや、EBPM の促進に活用できないか検討しております。
- これらを含めて、今所持している HCDP のアップグレードをしていきたいと考えているところです。

○会長

ただいまの報告事項について質疑等ありましたらお願いいたします。

—質疑等なし—

○会長

特に無いようでございます。この件についてはご承知おき願います。

—会議進行を事務局に交代—

5 その他

(1)第5回茅野市 DX 推進協議会の開催日について

○事務局

次回は 2 月の開催を予定していますので、日程については追ってご連絡させていただきます。

6 閉会